

氏名	平 田 弘 明		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 7 2 4 号		
学位授与の日付	昭和50年12月31日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)		
学位論文題目	実験的アレルギー性肝炎の研究 第1編 AKRマウス肝抽出液によるC ₅₇ Blマウス長期感作後の組織学的変化 第2編 同種肝抽出液感作リンパ球の移入による肝の組織学的変化		
論文審査委員	教授 大藤 真	教授 平木 潔	教授 妹尾左知丸

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

ヒトのウイルス性肝炎の発症ならびに慢性化の機序を免疫機序の面から解明することを目的に、純系マウスを用い実験的アレルギー性肝炎を作成し、その肝組変化の検討を行った。

第1編では complete Freund's adjuvant 添加AKRマウスの肝抽出液を抗原とし、C₅₇Blマウス60例に長期感作を実施し、対照群と比較検討し、実験群では対照群に比し肝内グリソン氏鞘内の著明な円形細胞浸潤、piecemeal necrosis、種々の型の肝細胞の変性と壊死ならびに星細胞の反応などを認めたが、感作を中止することにより、それらの変化は消失した。

第2編では、さきに感作したC₅₇Blマウスの脾およびリンパ節よりリンパ球を分離し、これを同系マウスに移入し、肝の病変を検討した。その結果、早期すなわち移入後2～3日目に肝実質細胞に広範な凝固壊死が発生し、やや遅れた時期すなわち移入後5～8日目に piecemeal necrosis、グリソン氏鞘の円形細胞浸潤などを観察した。これらの変化は感作リンパ球による直接ならびに間接的な免疫反応にもとづくものと強く示唆された。

以上の肝の組織所見はいずれもヒトのウイルス性肝炎の組織変化と類似しており、その発症機序を類推する重要な所見と考えられる。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は純系マウスを用いて免疫学的手法により、実験的アレルギー性肝炎の研究を行ったものであるが、従来余り確立されていなかったヒトのウイルス性肝炎の発症機序について重要な示唆を与える知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。